土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　玖波五丁目２地区　急傾斜地崩壊対策事業　詳細設計業務委託

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　砂防　構造物基礎

ボーリング名	Bor.No.3	調査位置	広島県大竹市玖波五丁目	北緯	34° 15’ 28.0300″
発注機関	広島県西部建設事務所 廿日市支所	調査期間	令和6年 3月11日～ 令和6年 3月15日	東経	132° 13’ 22.5000″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 67.40m	角度	180° 上 90 下 0° 0°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西
総削孔長	5.00m	地盤勾配	32° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：D-0B（東邦地下工機） エンジン：ヤンマー NFAD8　ポンプ：BG-3B（東邦地下工機）

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日
	66.70	0.70		粘土混じり砂		暗褐 灰褐			表層30cm程度、腐植土を含む。 砂は中～粗砂が主体。	
1	65.40	2.00		強風化花崗岩		明褐～褐			岩組織は一部不明瞭。 指圧で容易に砕ける。 DL～DM級岩盤に区分される。	
2	64.85	2.55		風化花崗岩		明褐 淡褐灰			岩芯まで風化進行し、指圧で容易に砕ける。 DH級岩盤に区分される。	
3				花崗岩		明褐～淡褐灰			軟岩相当層。 GL-3.20～3.30m、亀裂が多く全漏水となる。 コア肌はやや粗い。 縦状に亀裂があり、亀裂面は酸化が著しい。 最大コア長は約30cm。岩質は脆く、ハンマー打で割れる。 ハンマー打で半濁音を発する。 DL～DM級岩盤。	3/14 3.36
4										
5	62.40	5.00								
6										
7										
8										
9										
10										

標準貫入試験

深度―N値図（0 10 20 30 40 50 60）

N値	深度（m）	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
42	1.15	10	14	18	42/300		
	1.45						
50以上	2.15	14	16	20/90	50/290	290	
	2.44						
50以上	3.00	50			50/10	10	
	3.01	10					
50以上	4.00	貫入不能			50/0	0	
50以上	5.00	貫入不能			50/0	0	

試料採取 深度（m）	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
				3/13
				3/14